編集後記：今年，気象庁総務部の国際室に異動しました．国際室は，各国の気象機関や世界気象機関からの連絡の窓口として，また海外の国際会議に職員を派遣する調整役として，日々業務を行っています．

これまで思ってもみなかった職場ですが，以前と大きく違う視点で気象業務を見ることになり，世界と向き合う職場という点で貴重な経験を得ていることを日々実感する思いです．

気象業務は各国の協力がなくては成り立たないものですが，協力をベースに何を構築していくのかという点には各国の利害や思惑がからむところです．これまで，日本は先進国としてアジア域では常に優位な発言力を維持してきましたが，この地域の他の国々の成長は気象分野でも例外ではないことが分かりました．

個人的には，今後活発化すると考えられる気候分野の外交交渉で，日本がプレゼンスを優位に確保するためには，議論の上流側となるべき科学的な気候予測情報の作成と利活用に，日本が貢献している姿勢を示していけることが重要な点だと考えています．

英語の読み書きはわずかに慣れてきた気はしますが，ヒアリングは全く自信がありません．いまだに外線の電話が鳴るたびに代わってくれそうな室内の人を目で追う日々ですが，私なりにできることを探していきたいと思っています．（勝山健一）